

9-3 小学校 高学年総合的な学習の時間 指導事例 「お米の秘密を探ろう～農薬を使う？使わない？～」

【単元目標】

地域と関わりながら学ぶ中で、筋道を立てて考え自分で判断して問題解決学習を進め、米の生産やそれにまつわる文化について、自分との関わりのなかで考えようとする。

【目指す子どもの姿】

異なる意見や他者の考えを受け入れ、他者と協同して課題を解決する姿

1 本単元の流れと「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

学 習 活 動 (全5時間)	ポイントになる学びのプロセス
<p>お米を育てる体験を続ける中で、自分たちの育てている稲には、農薬を使うべきかどうかについて、問題になった。そこで、農薬と収穫量との関係や農薬の安全性、農薬を使わない農法等について自分で調べたり、地域の農家の人にインタビューしたりしたことをもとに話し合い、方向性を決めることになった。</p>	
<p>課題解決のために情報を集めて、自分の考えをつくる①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農薬の是非について課題意識をもち、何について調べるのかを決める。 ・ 課題に必要な情報を集め、自分の考えをつくる。 	<p>ポイント1 情報を収集する</p>
<p>地域の方のインタビューをとおして、さらに自分の考えを深める①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際に農業に携わる人の話を聞いて、農家の人工夫や苦労について知る。 ・ よりよい解決に向けてどのようなことを調べ、考える必要があるかの視点をもつ。 	<p>ポイント2 自分の意思を決定していく</p>
<p>自分の考えを、他の人との協議をとおして深める①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えを表現し、他の人に伝える。 ・ 異なる意見や他者の考えを受け入れ、自分の考えを深める。 	
<p>今後自分たちの田んぼやバケツ稲をどうしていくのかを決める①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学級で協議をし、自分たちのできることを考える。 ・ 今後、農薬を使うのか、その他の方法をとるのか、自分たちの考えを実行に移す準備をする。 	
<p>自分たちの田んぼに農薬を使用するか、使用しないかで活動を進める①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちの考えを実行に移し、米作りを続けていく。 ・ 様々なことを体験しながら、自分の見方や考え方を広げていく。 	

2 政治的教養を育むためのポイント

ポイント1

**自分なりの視点をもって情報を収集し、クラスで意見交換を行いましょう。
異なる視点からの意見交換で、考えが深まっていきます。**

物事の決断や判断を迫られるような話し合いや意見交換を行うことは、収集した情報を比較したり、分類したり、関連付けたりして考えることにつながります。そのような場面では、**異なる視点からの意見交換が行われることで、互いの考えはより深まります。**

農薬の使用は、米を順調に生育させ、病害虫などから守る役目があります。一方で、農薬を使用しないことに価値を見出している農家も存在します。実際に米作りの体験をしたり、生産者の苦労などを直接聞き取ったり、農作物の成長や農薬の科学的な働きを調べたりした上で話し合いを行うと、異なる視点での意見が出され、互いの考えを深めることにつながっていきます。このことにより、農薬の使用がどのような理由で行われているのか、そのことが食糧生産や農業事情と深く関わっていることなど、児童の幅広い理解と思考の深まりを生むこととなります。

このように異なる視点を出し合い、検討していくことで、一つの事象に対する見方や考え方が深まり、学習活動をさらに探究的な学習へと深めていくことが考えられます。

ポイント2

**試行錯誤を繰り返し、実感しながら学んでいく児童の主体性を大切にし、
寄り添いながら学習を進める意識をもちましょう。**

話し合いを重ねた後、児童は、どうすべきかの判断に迫られます。全員で一つの田を作っている場合は、最終的には合意形成が必要になってきます。話し合いが単なる意見のぶつけ合いにならないよう、根拠をもって意見を言うとともに、自分と違う意見も認められるようにする必要があります。また、少数派の意見も大切にすることを、指導者がもっておく必要があります。いざ、農薬をまいてしまったら、思いもよらず、色々な生き物が死んでしまっている状況を目の当たりにし、ショックを受けてしまう児童もいます。もう一度、話し合いを振り返り、命の尊さという視点も含めて検討しなおしていくことも考えられます。

また、農薬を使わないということにした場合、学習を進めていくうちに、虫や鳥の被害から米を守っていくためには、相当な労力を要することになります。「農家の人たちは大変な努力をしているよね。」といった実感を伴った考え方に変わっていくことも期待できます。教員は、**その時々の児童の姿に寄り添いながら、柔軟に学習を組み立てていく必要があります。**このことが、児童の主体性を育てていくとともに、こういった実感を伴った理解が、児童の地域社会を見る視野を広げ、社会に対する関心が高まり、社会参画につながっていくと考えられます。